

第141回北信越地区高等学校野球大会(令和元年度秋季)派遣報告

新潟県高等学校野球連盟 審判部
北支部審判委員 八木 恒司
南支部審判委員 星野 公人

令和元年10月12日(土)・13日(日)・19日(土)・20日(日) 4日間の予定で石川県にて開催された標記大会へ大会役員(審判委員)として派遣させていただきました。

この派遣を通じて高校野球審判委員としての心構えを再認識するとともに、今後の審判技術の向上につながる気づきをいただく事ができました。

11日(金)に行われた大会審判委員打合せ会を含め、その概要について下記のとおり報告いたします。

記

1. 期 間

令和元年10月11日(金)～10月15日(火) 10月19日(土)～10月21日(月)

2. 開催場所

◇石川県立球場(主会場) ◇金沢市民球場 ◇弁慶スタジアム(小松運動公園野球場)

3. 参加チーム

- 長野県 [上田西高 佐久長聖高 長野日本大学高]
- 新潟県 [北越高 新潟産業大学付属高 加茂暁星高]
- 富山県 [高岡向陵高 高岡商業高 高岡第一高]
- 福井県 [敦賀気比高 敦賀高 北陸高]
- 石川県 [星陵高 日本航空高石川 金沢商業高 津幡高]

4. 審判委員

審判委員長 毛利 浩太郎
審判副委員長 作本 彰 畑中 孝之 山上 剛史 国雲 正樹
石川県審判委員 下出 大祐 種那場 順也 小村 康史 椎木 悠太 西野 満治 太田 周
新酒 瑛悟 高田 浩幸 本蔵 剛典 北川 貴博 田口 真 山口 智央
岩田 義親 川田 信行 中野 雄太 道辻 宗敬 山本 祐司 松本 真聖

〈派遣審判委員〉

長野県 足助 祐太 山田 四七夫
富山県 斉藤 尚彦 橘 昇任
福井県 石津 勇二 道場 康智
新潟県 星野 公人 八木 恒司

5. 大会審判委員打合せ会 【10月11日(金)14:00～ :石川県立野球場会議室にて】

①フォーメーションの確認

『高校野球審判の手引き』による

②重点指導事項・大会注意事項の確認

- ・2019年「重点指導事項」
- ・2019年「周知徹底事項」
- ・2019年「甲子園から全国へ…2019夏」
- ・「周知徹底事項」の再徹底について
- ・大会注意事項
- ・試合前に十分なミーティング
- ・トス時間は、第1試合は試合開始の40分前、第2試合以降は試合開始時間の1時間前
- ・試合の運営等は**甲子園に準じる**。

※1.走者1塁、2塁及び1・2塁の時に、捕手タイム要求(1人よるタイム)した場合は、球審はタイムのコールをしないで、マウンド付近で選手の動向を見る。

※2.打者の打席内でサインを見ることの徹底

※3.内野手(捕手を除く)の1人によるタイムは原則認めない。

・その他

4審判委員協議による裁定を下す場合、再開の仕方を含め責任審判委員に報告(不要な場合は責任審判委員から合図)

試合開始・終了時には審判委員全員が起立、脱帽し礼をして下さい。

(試合終了後には校歌斉唱があります)

スタンドでの観戦時は私服にてお願いします。

6. 大会日程

◆令和元年10月11日(金)

14:00～審判打合せ会(県立球場会議室にて)

16:30～開会式(県立球場にて)

19:00～役員会(宿泊施設にて)

◆令和元年10月12日(土)

1回戦(県立球場 3試合・市民球場 3試合・弁慶スタジアム 2試合)

※台風19号の影響により**全球場中止** 10月13日へ順延。

◆令和元年10月13日(日)

1回戦(県立球場 3試合・市民球場 3試合・弁慶スタジアム 2試合)

※前日の台風により開始時間を1時間遅らせ、県立・市民球場の第3試合は**ナイター**となった。

◆令和元年10月14日(月)

準々決勝戦(県立球場 2試合・市民球場 2試合)

※雨のため県立球場第2試合は**中止**、市民球場第2試合は**1回ノーゲーム**となった。

◆令和元年10月15日(火)

準々決勝戦(県立球場 1試合・市民球場 1試合)

県立・市民球場共に前日の第2試合を1試合ずつ行った。

◆令和元年10月19日(土)

準決勝戦(県立球場)

※雨により**中止** 10月20日へ順延。

◆令和元年10月20日(日)

準決勝戦(県立球場 2試合)

◆令和元年10月21日(月)

決勝戦(県立球場)

◎今大会は台風被害や雨のため、日程と審判委員割り振りが大幅に変更となりました。

7. 担当試合

□大会初日の朝、申し合わせ事項の確認を毛利審判長よりお話しいただきました。

- ①トスはテーピング、サングラスの確認を球場入口で行った後別室で行う。(マスコミ対応)
- ②攻守決定のジャンケンで相子の場合は、再び最初はグーからやり直す。
- ③Fマークの意味を必ず両校へ伝えて下さい。
- ④捕手の1人歩きタイムは端的に行う様に指導して下さい。(代表者会議で伝えてある)
- ⑤次打者はホーム周辺で速やかに準備をして待つ。
- ⑥試合前・後の礼は両校で合わせる。(トス時にキャプテン同士で出来るまで練習させる)
- ⑦ボール回しは5回に拘らず時間を見て止めさせる。(クルーに任せる)

▽令和元年10月13日(日)

■1回戦 石川県立野球場 第2試合

試合時間(13:50 ~ 15:52 2時間02分)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
金沢商業 (石川)	0	0	4	0	1	0	0	8		13	15	0
高岡向陵 (富山)	0	0	0	0	0	0	1	0		1	4	1

審判委員: 星野(球)、八木(一)、西野(二)、竹崎(三)

▽令和元年10月14日(月)

■準々決勝 石川県立野球場 第1試合

試合時間(10:03 ~ 11:57 1時間54分)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
敦賀 (福井)	0	0	0	0	1	0	1			2	5	2
星陵 (石川)	2	0	2	0	2	4	x			10	14	1

審判委員: 八木(球)、星野(一)、山本(二)、中野(三)

▽令和元年10月15日(火)

■準々決勝 石川県立野球場 第1試合

試合時間(09:00 ~ 10:59 1時間59分)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
日本航空石川(石川)	0	0	1	1	0	1	0	4	0	7	7	0
敦賀気比 (福井)	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3	7	1

審判委員: 八木(球)、山本(一)、太田(二)、本蔵(三)

▽令和元年10月20日(日)

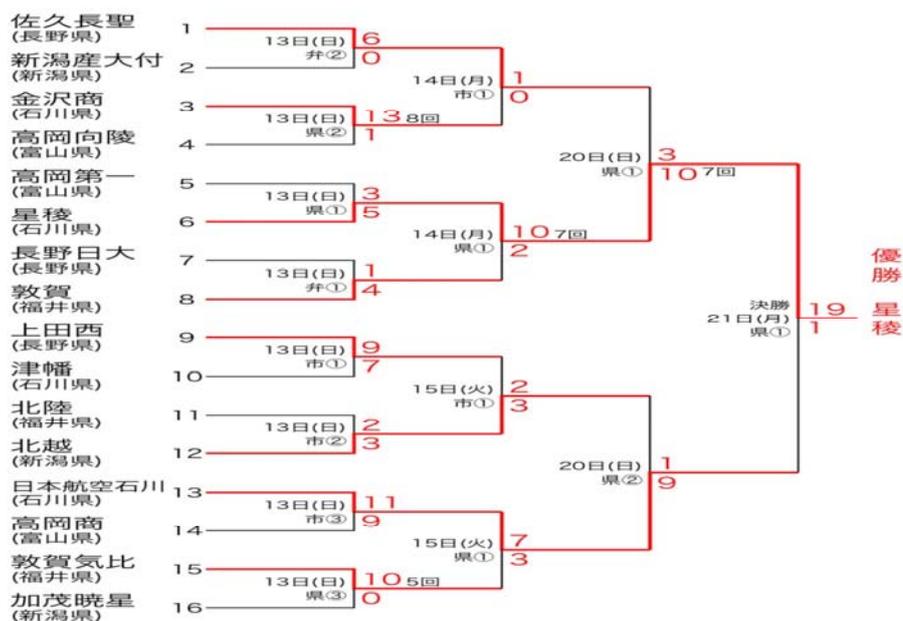
■準決勝 石川県立野球場 第1試合

試合時間(10:01 ~ 11:56 1時間55分)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
星陵 (石川)	4	0	0	0	3	1	2			10	11	1
佐久長聖 (長野)	0	0	2	1	0	0	0			3	9	2

審判委員: 八木(球)、道場(一)、斎藤(二)、椎木(三)

8. 大会結果



9. 指摘事項等

◎指摘事項

- 三振振り逃げのケースで打者が走らなければ、“ノーキャッチ”を入れずにダートサークルを出れば“アウト”を宣告した方が良い！（悪送球となった場合に厄介となるケースであるため）
- 選手に声掛けを行う際に、ジェスチャーを使って注意しないこと。観客から選手を急かしている様に見えるため、声掛けのテクニックを使って選手を誘導する。
- 45フィートまで上がった後にボールから目を切って本塁へ戻るケースがあった。“Watch the ball”
- 球審が3塁へ上がる時に、1塁審の上がりを見ていない時があった。必ず1塁審を確認すること！
- 本塁周辺の“ナッシング”は1回で決める！走りながらダラダラとやらないこと。
- 投手へボールを投げる場合、ボールボーイからボールをもらうケースは投げずに渡すと良い。

◎大会中の気づき 【毛利審判長より】

- ①県立野球場開幕ゲーム（高岡第一VS星陵）で星陵高校の打者が右中間への長打で2塁ベースに差し掛かった際、高岡第一の遊撃手がフェイクタッグを行った。打者走者は一度スピードを緩めた後、打球を見て3塁へ向かい3塁打となった。（フィールドの審判委員は状況を確認出来なかった。）

【審判長より】

フェイクタッグは絶対に許してはいけない、このケースでは行為が確認できたらポイント（指）を入れてプレーを流す、万が一3塁で打者走者がアウトになっても“オブストラクション”で3塁へ進める。

- ②今大会は甲子園と同様に野手のタイムは認めず、捕手の1人歩きも端的にする。野手が集まるタイム時に石川県の審判委員は即座にタイムを掛けていた。

【審判長より】

試合の流れで伝令を出すケースは分かる。監督が伝令を呼んだら1・3塁審判は良く見えるので素早く“タイム”を掛け野手をマウンドへ集まらせる。

また、捕手の一人歩きで極力タイムを掛けないのは、時間短縮と不公平にならない様にするためであり、一人歩きのタイムを許すとタイムの制限をしなくてはならなくなる。

10. 所感

今回の北信越大会は、甚大な災害をもたらした台風19号や雨の影響で、度重なる順延となり予定通りに日程を消化する事が難しい状況でした。 その様な中でも、開催県であります石川県高等学校野球連盟をはじめ大会審判委員長の御配慮により充実した大会となりましたことを感謝申し上げます。

新潟県勢は、北越高校が準決勝の舞台へと進み、日本航空石川高校に中盤まで互角の試合を展開しましたが、終盤に力尽き惜敗する結果となりました。 しかしながら、バッテリーのテンポや高校生らしい元気のあるプレーに自然とスタンドからは拍手が沸き、北信越地区の模範になったと感じています。

今大会は、審判打合せ会で甲子園と同様に進めること、また天候により試合時間を遅らせての開催などから、試合時間の短縮に重きを置かれました。新潟県高野連でも捕手の1人歩き時にタイムをかけないケースは実践していたため、大きな混乱はありませんでしたが、他県の審判委員の方々に守備タイムにおける時間短縮として、伝令を出す準備をした時点でタイムをかけ野手を集める方法など、今後の審判技術向上のヒントになった様に感じました。

個人的な反省といたしましては、トス時に沢山の事をお伝えしなくてはいけないと、早口になってしまい選手や部長先生方に不安を与えてしまいました。しかし試合では切り替えて、力を抜き普段通りに新潟県でジャッジしている気持ちを1試合通して持続することを心掛けた結果、両校の選手達がゲームをスムーズに進め、不思議と試合時間の短縮と一体感が生まれた感覚を覚えました。

今回の大会を通じて派遣審判委員の方々とも情報交換の時間をいただき、常に「**基本に忠実**」であることがどこへ行っても、通用する審判委員であることも実感できました。また、石川県の審判委員はとても若く情熱を持った方々が多いため、どのようにして審判委員への道に進んだのか？と訪ねてみると、高校時代に審判委員を見て『カッコイイ』『自分もやってみたい』と思い、年に1度高校生を対象とした審判講習会が開催されるためそこに参加したとのことでした。

新潟県でもこのような取り組みが広くなされて行くことが、高校野球がこれからも愛される1つの要因ではないかと思えます。

更に今大会で最も強く感じたことは、大会の順延などで仕事や家庭の調整を日々行われている審判委員の皆様は、野球に対する情熱と責任感、職場と家族の理解があつてこそ成り立っているのだと実感できました。今後も感謝の心を持ち技術向上を目指して審判活動を続けて行きたいと思えます。

最後に今回派遣させていただき、各県の派遣審判委員の方々並びに、石川県の皆様には大変お世話になりました。多くのお気遣いをいただき、これも諸先輩方々が積み上げられた信頼と実績があつてこそと感謝いたします。

新潟県高等学校野球連盟の役員、審判委員、加盟高校、関係者のご支援により、本大会に派遣させていただきましたことに心から感謝申し上げます、報告とさせていただきます。



開会式 新潟県代表



新潟県派遣審判委員

11. 派遣報告写真



令和元年10月13日(日) 石川県立野球場
1回戦 金沢商業VS高岡向陵 星野審判委員



令和元年10月20日(日) 石川県立野球場
準決勝戦 星陵VS佐久長聖 八木審判委員